
文芸学科学生がリース事業をマンガで紹介するパンフレットを制作 山銀リース(株)との産学連携で編集しました

山銀リース株式会社(社長 柿崎正樹 山形銀行100%子会社)および東北芸術工科大学(山形市/学長 中山ダイスケ)は、この度、同大学 芸術学部 文芸学科 野上勇人ゼミ(現4年生6名)と協同し、「マンガで謎解き リースのメリット」のパンフレットを制作いたしました。

山形銀行と本学は、2007年9月13日に産学連携協定を締結しており、今回はその協定の下、2019年の夏より取り組みを行なってきました。制作が完了した3月に発表する予定でしたが、コロナ禍の影響で本日のご案内となりました。

このパンフレットは、山銀リースの法人のお客さまのリース利用を促進すべく、リース事業の仕組みをマンガでわかりやすく解説することを目的としています。制作にあたった学生たちは、実際に営業しているリース会社訪問を端緒にリースという金融手法を学び“山形らしさ”を意識したストーリー展開やキャラクターの設定等について議論を重ね、**親しみやすいお笑いの要素も盛り込んだマンガに落とし込みました。**

欄外にはリース利用のメリットを小解説スタイルで盛り込み、**ビジネスツールでありながら、文芸的要素やマンガという文化的・芸術的要素を共存させています。**

同ゼミでは本制作を演習授業の一環として取り組み、リースのご利用がないお客さまへの訴求を念頭に置いた議論・検討を行ないました。ストーリー展開からキャラクター、コマ割り、セリフ、絵柄等に至るまでさまざまに検討した結果、業績好調なお菓子メーカーのラ・フランス社に探偵が潜入調査するという、**ビジネスツールとしては目新しいマンガのパンフレットが実現しました。**

このように、実際に使用されるビジネスツールの制作は、産学連携による協同研究・開発ならびに大学教育におけるアクティブ・ラーニングの先行事例といえます。

山形銀行では2019年4月よりリース業務の媒介(※)を始めていますが、今後はこのパンフレットを活用して、未だリース利用のない中小企業法人の裾野拡大を図っていく方針です。

※銀行員がお客さまとリース会社との間に立って、その両者を当事者とするリース契約の成立に向けて、リース会社の商品提案や商品説明を行なうこと。リース会社の担当を介さずに、銀行員が単独で商品の提案や説明を行なうことができる。

■本件に関するご照会窓口

◎東北芸術工科大学 文芸学科 専任講師 野上勇人

TEL:023-627-2199 Email:hayato@crazy2.jp

◎山銀リース株式会社 社長室長 山川政樹 TEL:023-632-4983



学生が制作したパンフレットの表紙



欄外にはリース利用のメリットを小解説スタイルで掲載

●研究概要

研究名：山銀リース株式会社 リース事業紹介パンフレットデザイン制作業務

研究期間：2019年9月20日～2020年2月20日

●パンフレット概要

タイトル：「マンガで謎解き リースのメリット 戦略的リースの活用法」

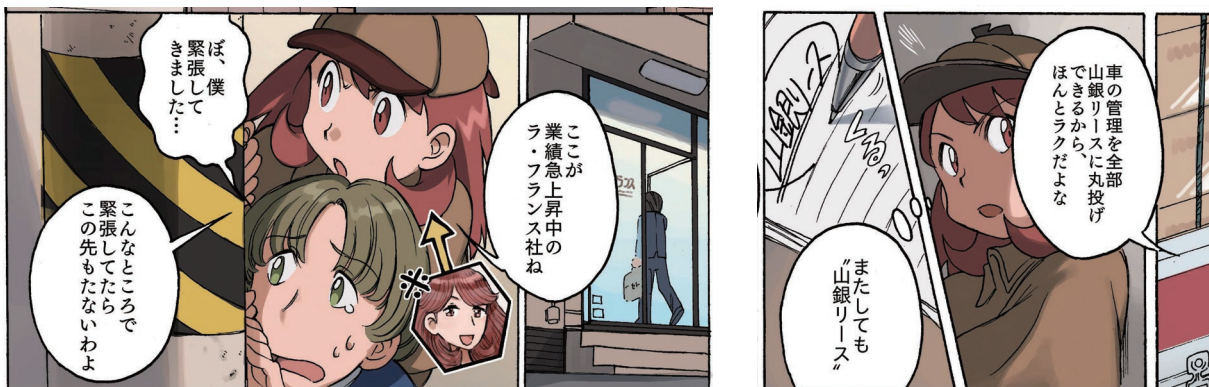
体裁：A4サイズ・フルカラー・8ページ（表紙含む）

編集長：大友玲奈（野上ゼミ現4年）

マンガ作画：エリザベス

デザイン：オオノデザイン

マンガ内容：さくらんぼ社の桜井は、ライバル会社のラ・フランス社の業績が急激に伸びているのを不思議に思い、その秘密を探偵に探らせる。依頼を受けた女探偵は、助手とともにラ・フランス社に潜入して調べる。すると、リースの利用が業績アップの秘密であることが判明していく……。



業績好調なお菓子メーカーのラ・フランス社に探偵が潜入調査するというストーリーが展開していく